

第24回 琉球新報「読者と新聞委員会」

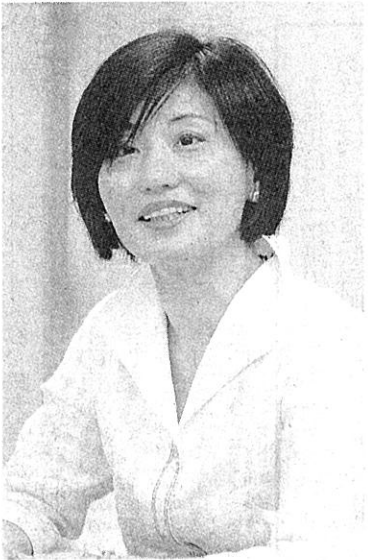
原発問題に切り込め



比嘉徹氏



島袋純氏



比嘉梨香氏



吉元政矩氏

社外の有識者が琉球新報の報道を検証する「読者と新聞委員会」(主宰・富田詢一社長)の第24回会合が4日、那覇市天久の琉球新報本社で開かれた。今回は第5期委員(任期2年)としての初会合。委員の吉元政矩氏(元県副知事)、比嘉梨香氏(前県教育委員長、カルティベート社長)、島袋純氏(琉球大学教授)、比嘉徹氏(レイメイコンピュータ社長)の4氏が、3月11日

東日本大震災の報道

に発生した東日本大震災に対する報道、「慰霊の日」に向けた報道について意見を交わした。東日本大震災については「現地に記者を派遣したこと」は評価できるとする一方「ボランティアなどをつなぐ情報ももっとあれば」との意見が出された。慰霊の日については、戦争体験者が少なくなくなるなかで平和教育の在り方などの課題が指摘された。(文中敬称略)

「被災地から」というシリーズで、県人を通して被災地の取材をし、読者の関心をかなり高めた。同じ県人が地元を根を下ろし、先頭に立って復興に取り組み姿に、県民として誇りを覚えると同時に、勇気づけられた人も多かったと思う。悲惨な写真がある中で、復興に携わる一人一人の写真、手を広げて笑顔で写っている写真があった。ほっとさせられた。ああいう表現はいい。被災地の新聞の社説も読むと切ないくらいに当事者の気持ちが分かり、逆に

するかで非常に悩んだが、地元新聞社などに電話をし、情報を得て記者を派遣した。県人の被災状況などを震災発生1ヵ月の前には紙面に掲載できた。防災への意識などは節目節目に報道したい。県人の復興状況も取材、紹介しながら防災対策の見直しなどがどのように進んでいるのかなど半年、1年といった長い期間で見たい。

災害対策の課題報じて 吉元氏

県人の動向伝わり安心 比嘉梨香氏

復興ファシズム点検を 島袋氏

関心高めた被災地取材 比嘉徹氏

間の必要性を感じた。

島袋 地震と津波の被害からどう立ち直っていくかについて詳細な記事を読むことができた。沖繩の方を中心に特集が組まれていて、非常に共感をもって読むことができた。注文としては、ボランティアで被災地に行っている沖繩の人がどう頑張っ

だ。「安保ムラ」と全く利権構造が同じ。同じような取材力で原子力問題に切り込むべきだ。今回新たに起こっている問題は、復興ファシズムといわれる形で国民の利益を犠牲にして組織の利益、権益を守り、権限を拡大しようとする動きだ。中央では全庁が権限強化に走って

いい。ネット(避難区域)30km圏内の地図を手に入れたが、沖繩本島に当てはめると、山原以外の広い地域が周辺離島を含め圏内に入っている。これだけ大勢の人が避難しているんだと分かった。そういう表現の工夫も必要だ。

「被災地から」というシリーズで、県人を通して被災地の取材をし、読者の関心をかなり高めた。同じ県人が地元を根を下ろし、先頭に立って復興に取り組み姿に、県民として誇りを覚えると同時に、勇気づけられた人も多かったと思う。悲惨な写真がある中で、復興に携わる一人一人の写真、手を広げて笑顔で写っている写真があった。ほっとさせられた。ああいう表現はいい。被災地の新聞の社説も読むと切ないくらいに当事者の気持ちが分かり、逆に

するかで非常に悩んだが、地元新聞社などに電話をし、情報を得て記者を派遣した。県人の被災状況などを震災発生1ヵ月の前には紙面に掲載できた。防災への意識などは節目節目に報道したい。県人の復興状況も取材、紹介しながら防災対策の見直しなどがどのように進んでいるのかなど半年、1年といった長い期間で見たい。

理由を取材でフォローしていない。沖繩の場合にはなぜ必要なのか。全国的に原発が問題となっているので取材してみたい。

比嘉徹氏 被災地への取材、紹介しながら防災対策の見直しなどがどのように進んでいるのかなど半年、1年といった長い期間で見たい。

吉元氏 関連するマスコミ(琉球新報社、ラジオ沖繩、沖繩テレビ放送)がチームとなった5月13日の被災地支援フォーラム、6月18日の避難者交流会や、4月12日掲載の被災地各地の社説は良かった。沖繩電力が原発の研究をしているが、その理由を取材でフォローしていない。沖繩の場合にはなぜ必要なのか。全国的に原発が問題となっているので取材してみたい。

比嘉梨香氏 現場での戸惑いや苦しみ、そこに住んでいる人がどのような状況に置かれているのかももう少し分かるような取材があればよかった。復興にはまだまだ時間がかかる。ボランティアなど阪神大震災と比べて少ないが、行きたい人やできることとはないかと感じている人は多い。新聞社同士の連携の中でボランティアや支援の輪を広げていくようなものがあれば。

島袋純氏 復興ファシズムといわれる形で国民の利益を犠牲にして組織の利益、権益を守り、権限を拡大しようとする動きだ。中央では全庁が権限強化に走って

米須清光(社会部長) 被災地への取材、紹介しながら防災対策の見直しなどがどのように進んでいるのかなど半年、1年といった長い期間で見たい。

比嘉徹氏 被災地への取材、紹介しながら防災対策の見直しなどがどのように進んでいるのかなど半年、1年といった長い期間で見たい。



富田詢一社長



玻名城泰山編集局長



潮平芳和論説委員長

米須清光(社会部長) 被災地への取材、紹介しながら防災対策の見直しなどがどのように進んでいるのかなど半年、1年といった長い期間で見たい。

出席者

- 「読者と新聞委員会」第5期委員
- 吉元政矩氏(元県副知事)
- 比嘉梨香氏(前県教育委員長)
- 島袋純氏(琉球大学教授)
- 比嘉徹氏(レイメイコンピュータ社長)

- 琉球新報社
- 富田詢一社長
- 玻名城泰山取締役編集局長
- 潮平芳和論説委員長

- 名城知二朗編制本部長・紙面審査委員長
- ▷ 普久原均報道本部長
- ▷ 宜保靖整理部長兼制作部長
- ▷ 松元剛政治部長
- ▷ 外間聡経済部長
- ▷ 米須清光社会部長
- ▷ 宮城修文化部長
- ▷ 謝花稔運動部長
- ▷ 与世田兼浩地方連絡部長
- ▷ 名嘉真朝英写真映像部長
- ▷ 上原康司調査オピニオン部長
- ▷ 立津淑人デザイン部長
- ▷ 国吉美千代メディア部長

「慰霊の日」に向けた報道

破名城 慰霊の日に向け
た紙面について意見を伺い
たい。

島袋 戦後66年たつが、
年々戦争経験者が少なくな
って行く中、時間がたつに
つれ戦争のつらい体験をよ
うやく話してくれるように
なった。読者に意義のある
連載をしていると思う。一
方で、このような過去の経
験を伝えるのはもちろん重
要だが、それが世の中で継
承されているのか検証する
ことが必要だ。現代社会の
中でどういう意味を持ち、
あるいは沖繩の地域社会に
どう影響を与えているの
か。学校教育ではどうい
ふふうで発展してどう継続
性をもつて伝えられている
か。断片的な平和教育の実
態を伝えた記事はあるが、
本当の意味の課題を捉えた

記事は少ない。継承と学び
が新聞社の課題だ。戦争が
過去の体験で終わってしま
わないように、沖繩の未来
に伝えることが重要だ。

えることが継承の第一歩。
戦中、戦後を生き抜いた人
の話を聞く機会を新聞社が
つくってほしい。

知り、みんなが考えるよう
な投げ掛けをしてほしい。
比嘉徹 私たちの世代は
祖父母や両親から繰り返し
戦争の話を聞いて恐ろしさ
と、心そのものが無感覚に
なる。心を揺さぶることが
必要な気がする。これから
過去の記憶を風化させない

どもたちに伝えていく必要
がある。例えば、当時の教
育がどのように行われてい
たか。当時の教材や歌、絵
などを取り上げてほしい。
子どもたちの「なぜ」に答
えられるように資料などを
踏まえて説明してほしい。

真ん中だ。身近なアジアの
視野を県民の中に示すため
にも、中国時報の翻訳記事
を増やしたり、東アジアへ
の通信員の配置も広げたり
してほしい。

アジアの視野も大事に 吉元氏

体験聞く機会つくって 比嘉梨香氏

平和教育在り方検証を 島袋氏

時代背景伝えてほしい 比嘉徹氏

比嘉梨香 戦争体験者が
少なくなる中、体験者から
直接話を聞けるきりぎりの
時期だ。個人の体験を伝え
る活動を通して、子どもた
ちが自分のこととして戦争
の悲惨さ、命の大切さを考
育になっっているか、現状を

子どもたちにどう伝えるの
か、そのような企画も読み
たい。学校での平和教育や
社会教育の中で、沖繩戦が
なっっている。一方で、米
国や日本兵の振る舞いを非
難する報道だけでなく、そ
の背後にある時代背景を予

I Tとの融合必要 比嘉徹氏 記者は勉強不足 島袋氏

その他注文

破名城 ほかに紙面への注文は。

島袋 知事が求めている一括交付
金、県と沖繩総合事務局の統合が実現
すれば、今までと全く違う行政能力が
求められる。議会の在り方も変えなく
はならない。既存のシステムと違うシ
ステムが必要となるが、現状の課題、何
が問題かを捉える能力が低すぎる。世
の中の変化は激しいが、それを自分な
りに理解しないと多くの課題が埋もれ
てしまう。記者が勉強不足だ。これを
自覚すべきだ。半年でもいいから、取
材をグレードアップさせるためにも勉
強する期間、制度を設けてはどうか。

富田詢一(社長) 新聞記者は取材先
から学んで、記者自身で深めていくた
めの努力をしないと成長しない。
比嘉徹 新聞離れが起きている要因
に、I Tの進歩がある。携帯端末が向
上すると、新聞は非常に厳しい状況に
追い込まれるのではないか。それを避
けるためにも新聞とI Tの、それぞれ
の優位性を生かして融合を図る必要が
ある。新聞は、最新の情報から過去の

離島もっと取材を 比嘉梨香氏 自立促す企画期待 吉元氏

情報にアクセスするプラットホーム的
な役割を担ってほしいか。例えば記事
にQRコードを付け、携帯端末を当て
ると関連情報が引き出せるようにす
る。面白いとなれば、読者を増やすき
っかけにもなる。I T業界にいるが、
新聞とは共存したいと思っている。

比嘉梨香 佐藤優氏の「ウチナー評
論」の視点が面白い。元官僚という内
部にいた人から沖繩を論ずるのはこれ
まであまりなかったので評価できる。
今後とも偏らない多様な意見を紙面に
載せていく必要がある。また、離島の
ニュースはマスコミでは取り扱いが小
さい。問題提起はするが、ニュースは
追ってこない。今後、離島のことをも
っと取材してほしい。

吉元 これまで沖繩振興策を延長し
てきて国に面倒ばかり見てもらってき
た。現在、自立や自治をする気持ち
行政や県民にあるだろうか。誰が「沖
繩の自立」を若い人に継承して変化を
促していくのか。特定な方向に誘導す
るのではなく、さまざまな問題を並べ
て、マスコミにリードしてほしい。
「自治への旅立ち」など良い表現を探
して特集を組んでほしい。